

Whose round is it anyway?

「次は誰のラウンド？」

イギリスのソーシャルライフの中心となっているパブやバー。これまでの「安っぽくて質素」というイメージを払拭して、最近は大分変わってきたよう。昔はパブでの食事といえば、クリスプス(イギリスでは、ポテトチップスのことを crisps と呼びます)、ナッツ、そしてカビのはえたサンドイッチ(?!)が当たり前でしたが、最近人気のガストロ・パブでは、トップクラスの料理を、きれいな、禁煙環境でエレガントに楽しめるようになりました。また、パブでの「テーマ・ナイト」では、カラオケやスポーツのテレビ中継に取って代わり、ダーツやドミノなど伝統的なゲームが復活しています。

しかし、今も昔も変わらないイギリスのパブ文化の現象の一つが、「ラウンド」と呼ばれる習慣。

このイギリス独特の習わしは、グループの一人が全員分の飲み物を買ひ、これを持ち回りで担当するというもの。ラウンドでは、次のような表現がよく使われます。

「It's my round. (次は僕のラウンドだ)」、同じ意味のバリエーションとして「It's my shout.」や、「I'll get them in.」。これらは本人がグループの全員分の飲み物を自主的に買うときに使います。また、「Whose round is it?(次は誰のラウンドだよ?)」や、ちょっと怒り気味に「次のラウンドは俺のじゃないぜ。前のをやったところだから。」などは、飲んでる内に次が誰の番かわからなくなったような場合に使われます。

一説では、このならわしは、勇ましく、競争的なお酒の飲み方をしたバイキング由来のものとも言われています。また、信憑性は低いですが、キング・アーサーと円卓の騎士につながるかも。

始まりはともあれ、この習慣は様々な理由により代々受け継がれてきました。まず実際的かつ効率的であること。カウンターで並ぶ時間を減らすことにより、パブで飲むために使う貴重な時間を最大活用することができます！また、より深い理由として、仲間に飲み物を「ふるまう」という機会は気分がいいものですし、それによりグループ内の信頼と絆が深まりもするという、高度に統制された社会的儀式なのです。

ただし、ラウンドには、気をつけなくてはいけない落とし穴や暗黙のルールがあるので、ご紹介しましょう。ラウンドに積極的になりすぎると見栄っ張りにとられますし、自分のラウンドに少しでもためらいを見せることは、パブ文化で最低の行動である「round dodger(ラウンド逃れ)」の汚名を着せられます。また、グループの人数が多くなると、1回のラウンドで使う金額が高くなり、複雑なものとなります。(一般的には、3~4名でのラウンドが最適とされています。)ラウンドで飲み物を買うことが、飲みすぎを助長していると言う人もいます。そのために北イングランドでは、一時的にラウンドでドリンクを買うことが政府により禁止されたほどです！

様々な欠点があるとしても、ラウンドは今でも支持を得ている習慣。最近行われた調査によると、イギリス人の82%が、ラウンドで飲み物を注文することに好意的であるとのこと。パブがどのように変化したとしても、飲み物の買い方は今後ずっと変わらないでしょう。

著作者 フィリップ・パトリック (Philip Patrick) は、ブリティッシュ・カウンシル (www.britishcouncil.or.jp) の英語講師です。

Copyright © British Council, All right Reserved.